

城里町の文化財さんぽ(五)

町指定文化財(建造物)

徳蔵寺大師堂

指定年月日/平成元年三月一日  
所在地/城里町徳蔵  
管理/所有者/徳蔵寺

町指定文化財「徳蔵寺大師堂」がある徳蔵寺(引布山金剛光院徳蔵寺)は、弘仁年間(八一〇〜八二三年)に弘法大師によって創建されたと伝えられる真言宗智山派の寺院です。当初は、八瓶山の麓に在り、平安時代末には三〇〇人も僧兵が修行する大寺院でした。

鎌倉時代初期には、佐白山(笠間市)の正福寺と度々争いを繰り返して、元久二(一二二五)年には、正福寺に味方した宇都宮氏の軍勢によって攻め落とされ焼失してしまいます。

その後は僅かな堂宇を建てて、難を逃れた仏像を護るのみでしたが、およそ三〇〇年後、室町時代の大永二(一五二二)年に、空法上人によって現在の地に再興されました。

「徳蔵寺大師堂」は、そのときに創建されたと伝えられており、棟



▲徳蔵寺大師堂

札には「延宝二(一六七四)年修復」と記されています。

堂内には、「城里町の文化財さんぽ(三)」で紹介した県指定文化財「木造弘法大師像」が安置されています。

現在の建物様式は、銅板葺三重垂木向拝付方形造りですが、昭和五二(一九七六)年以前は、茅葺二重垂木向拝付寄棟造りでした。規模は、間口七・八メートル、奥行き七・三メートル、高さ約一二メートルです。堂内部の格天井には、二二枚の大和絵風の花鳥風月が描かれており、回廊の上には数多くの絵馬が奉納されています。

解説文/町文化財保護審議会会長小山映一  
問合せ 教育委員会事務局  
☎029-1288-13135

俳句

水色の紫陽花霽雨上がり 瀬谷 博子  
色褪せぬ十年亡夫の夏帽子 今瀬 多代美  
夏帽子脱ぐや聞こゆる山の風 中野 千賀子  
溜め池の日暮に淡く蓮咲けり 綿引 英子  
片栗の花や谷底のぞきこむ 飯田 勇一  
ジョーカーの出るかもしれぬ夏休 竹内 幸子



村中が安堵の吐息蜜舞う 田口 勝元  
山藤の咲きてけぶれる峡の空 仲田 まちゑ  
夏祭り巫女ら揃いの緋の袴 寺門 孝子

川柳

老いるほど親に似てくる顔かたち 富田 多蔵  
当たる場所探し求めて夏ジャンボ 車田 綾子  
大相撲負けた力士は下を向き 川原 清  
「かなかなはその日暮しがいいのかな 飯村 孝一

文芸しろさと

短歌

花桐のうすむらさきに初夏来たる三十路の母のたち日めぐり来 大森 久子  
頂さし山ぶさき匂ふ厨辺にキチャラブキ作りをひと日楽しむ 佐川 あや  
馬鈴薯の花白々と咲く畑に梅雨のひと日を細き雨降る 渡辺 千紗子  
白花ゆれ若葉の中に山法師往き交ふ人も見上げほほえむ 所 美恵子  
幸せも侘しきも知る齢となりしじみじみと聞く風鈴の音 山形 式妙

ゲートボールに行く道すがら山より静かにきけるうぐいすの声 杉山 みちこ  
夕暮れは西の空より迫り来て黒あげはちよう低く舞い舞う 島 愛子  
「カモメだわ!あらっ白鷺よ、」鳩も飛び病床長閑けく梅雨本番に 信田 育子  
道端の雑草萎ゆるこの暑さバス停からの吾も喘ぎつつ 富田 佐智子  
俯きて葉陰に咲ける姫沙羅の真白き花は夏の乙女よ 萩谷 登喜子  
朝早くラジオ体操四十年足腰悪く元氣欲しくて 藪部 光子

八十寿すぎ仲間と飛ばす白球をアツマールの空やさしくつ、む 富田 欽子  
最愛の母を看取りて十年後歌に託して思いで耽る 矢次 洋平

